



■ 『101 回目の青春』 — 「三高祭（文化祭）」開会式にて—

はじめに「三高祭」開催に向けて準備にあたってくれた生徒会執行部を中心とした生徒の皆さん、教職員の皆さん、ご支援いただいた保護者・地域の皆様、そして会場をご提供いただいたアスパリの皆様に感謝申し上げます。

今年度「三高祭」のテーマは『101 回目の青春したい宣言』です。三刀屋高校は、1924 年の開校以来 100 回それぞれの“青春”を過ごし、今年 101 回目の“青春”を迎えました。「101」という数字の響きは、歴史の一区切りを感じさせる「100」と違い、新たなスタート、みなぎる活力をイメージさせます。皆さんには、これまでの先輩たちの“青春”に思いを馳せながらも、次の 100 年に向けて新しい三高の扉を開くべく「101 回目の青春」を迎えてもらいたいと思います。

『恥ずかしいか青春は』『青春シック』『青春フォトグラフ』『青春と青春と青春』『青春アミーゴ』『青春のリグレット』…「青春」をテーマにした曲は数多くあります。しかし、「青春」という言葉が持つさわやかなイメージと違い、いずれもその「ほろ苦さ」や「後悔」といった内容をテーマにした曲が多いという印象です。「青春時代が夢なんて後からほのぼの思うもの 青春時代の真ん中は道に迷っていることばかり」と森田公一も歌っています。あ、これはオーバーエイジ枠だったかもしれませんね。

統一テーマの説明には、「今年は 100 周年で、101 回目の学園祭を、三高生一人一人が 1 つになって青春の 1 ページに向かっていこうという意味がこめられています。」とあります。合唱、クラス展示、色別パフォーマンス、衣装、デコレーション、部活動等の展示、一つのものを協働して創造していく過程は、思いのほか大変な作業です。青春の 1 ページには、きれいで楽しい思い出ばかりではなく時に傷ついたり悲しんだりすることもあるかもしれません。しかし、1 つのことをやり遂げ、乗り越えた先には、友人との団結や友情、そして一段階成長した自分が待っています。3 日間、元気に楽しく駆け抜けよう！

